

令和元年度四国森林管理局保護林管理委員会  
議事概要

1 日時 令和2年2月14日(金) 13:30~15:30

2 場所 四国森林管理局 2階大会議室

3 議題

- (1) 平成31年度(令和元年度)保護林・緑の回廊モニタリング調査結果について
- (2) 緑の回廊モニタリング調査の調査個所の見直しについて
- (3) 令和2年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査(案)について
- (4) その他

4 議事概要

(委員からの主な意見)

(1) 平成31年度(令和元年度)保護林・緑の回廊モニタリング調査結果について

○ 平成31年度保護林モニタリング調査結果について

- ・植物のリストは、環境省も国交省の河川水辺の国勢調査のデータベースも、高知県のレッドリストの改定も皆APGに直しているのので、今後はAPG体系に変えること。

また、希少種も高知県の場合は変わる(正式発表は3月24日頃)ので、今後は新しいリストを使うこと。その中に新しく注目種という、レッドリストのカテゴリには入らないけれども高知県にしかないとか、高知県以外にはほとんどないとか、南限とか北限であるとか、注目すべき高知県らしさをアピールできるような種を11種類位指定しているのでその点についても記載すること。

(事務局) 今後、そのように対応したい。

- ・古尾山保護林の大道マツのマツ枯れや佐田山保護林のスタジイの枯損について、放っておくと無くなっていくので、アカマツにしろ、スタジイにしろ、種に着目するなら何らかの管理の方針が必要ではないか。
- ・種が無くなっていく過程もちゃんとモニタリングされていれば、それはそれで価値があることだと思うので、モニタリングだけはしっかりやっておくということを最低ラインとして守らなくてはいけない。

古屋山保護林においての、大道マツのマツ枯れ対策(樹幹注入)を引き続き実施してもらいたい。

(事務局) 古屋山保護林の樹幹注入の継続やモニタリングについては引き続き実施したい。

○ 平成 31 年度保護林モニタリング調査結果について

- ・ 石鎚山系に影響が出ているということで、愛媛県、高知県、四国森林管理局、環境省と連携して協議会を設けている動きについて、今後の展開を注視して欲しい。

(2) 緑の回廊モニタリング調査個所の見直しについて

- ・ 人員・コストの面から調査地点の見直しは必要と思われるが、単に箇所数減らすのではなく、調査頻度を伸ばしても同じ効果が得られる。その観点からすると、期間が開いたから取り止めるのではなく、そのような所こそ優先的にやるべき。緑の回廊は 5 年に 1 回とか細かくやらなくても、10 年に 1 回とか 15 年に 1 回とか、かなり長い時間を置いてやるという戦略もある。

(事務局) その視点から、もう一度検討してご提案したい。

(3) 令和 2 年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査 (案) について

- ・ センサーカメラと巣箱調査だと希少種を押えるのは限界があるので、希少種が多く含まれるコウモリを調査メニューに是非加えて欲しい。

(事務局) 検討したい。

- ・ 樹木の調査について、可能な限り消失したナンバーテープを復元するとあるが、調査の継続性を確保するのであれば、金属の番号札を打つことと直径を測る場所をスプレーやペンキ等によりマーキングすることを検討してみてはどうか。

(事務局) 検討したい。

(4) その他

○ 民有林と緑の回廊に連携に関する協定の締結について

- ・ 今回の協定された個所は、現在の緑の回廊から離れているが、緑の回廊になっていない国有林を緑の回廊に広げて繋ぐような計画はないのか。

(事務局) 今のところ考えていない。

以上